令和６年４月１日

精神科病院　看護部長　　様
　　教育担当師長　　様
総合病院　　看護部長　　様
　　教育担当師長　　様

岩手保健医療大学地域貢献事業企画による
『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』のご案内

岩手保健医療大学大学院研究科長
岡田　実（精神看護学領域・教授）
E-mail: mokada@iwate-uhms.ac.jp
☎　019-601-8571（研究室）

平素より本学の教育と研究にご理解とご協力を賜り，こころよりお礼申し上げます.

この度，本学の地域貢献事業の一環として，標記のプログラムを企画しましたのでご案内いたします．本プログラムの趣旨，運営方法，プログラムの概要，講師の紹介などについて，案内書を添付しましたので，ご検討いただきたく存じます.

本プログラムは2024年７月26日(金)18:00～19:30に初回開催の予定です。
貴施設の教育担当部門による教育プログラムとして，ご活用を検討くださいますようお願い申し上げます．なお、本プログラムへの参加費は無料です.

『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』の案内書

１．プログラムの趣旨

現在の精神医療は，患者様の地域移行や地域定着の促進を重要な課題としております．

精神科病院では，早期退院を目指して「精神科救急入院料病棟」や長期入院患者の退院を促進する「地域移行機能強化病棟」を運営しながら，治療実績をあげております．また，老朽化した精神科病院の多くが新（改）築を遂げ，同時に，病棟機能や治療規格の高度化を図り，精神科治療と看護をより専門化を目指す方向に舵をとっています．

伝統的な精神医療と看護が様変わりした一方で，未だ精神病床数や削減のペースは世界水準に届いていないことは認めざるを得ません．また，最近では精神科病院の看護職員による入院患者への虐待事案を報道によって知るにつけ，一部の医療機関とは言え，大変心が痛みます．

本プログラムは，精神科領域で一定の臨床経験を積んだ中堅看護師の皆様を対象に，それぞれの看護実践を振り返り，今後の臨床現場に期待される倫理水準と看護実践力の質を高めることを目的としています．プログラムの指定文献を抄読しながら，参加される看護師の皆様同士の意見交換を通じて，精神科看護実践を振り返りその質向上に寄与しようとするものです．

中井久夫氏，石川信義氏，松本雅彦氏，計見一雄氏など，精神衛生法時代から精神保健福祉法まで駆け抜け，精神科看護に範を示し貢献してこられた先生方のお姿は，既に臨床現場に見ることはできません．また，高い倫理水準の実現を目指し，精神科看護の実践家として一目を置かれた先輩諸氏も然りです．装いこそ新たになったとはいえ，こうした臨床家の皆様からは，まだまだ学ぶことが多いのではないでしょうか．

本プログラムは，精神医療制度の異なる世代間でコミュニケーションを図るという意味を持つと同時に，現職に留まりながら，職場における能力の再開発を目指すという意味では，看護専門職のリスキリング（Reskilling）という意義も併せ持つプログラムになると考えております．

２．プログラムの運営方法

プログラムは以下の要領で運営いたします．

(1) 月１回のペースで連続８回のプログラムを提供します．

☞１回を１時間半程度，原則 18：00～19：30 開催です．初回の日時は合議としますが，2 回目以降は前回のプログラム修了時に打合せます．

(2) 参加対象は精神科病棟で３年以上の臨床経験のある中堅看護師で定員は５名です．

☞1 施設から１名をご推薦ください．定員になり次第，締め切らせていただきます．

(3) 職場推薦による参加を原則とします．

☞個人による参加を妨げるものではありませんが，一度，看護部長様にご相談ください．

(4) 指定文献はプログラム講師による著書です．

☞事前に指定されたページまで読了していただくことが必要です．1 回につき 25～30 ページ程度です．（岡田実：暴力と攻撃への対処―精神科看護の経験と実践知，すぴか書房，2008／著者割提供可／目次と頁サンプルを添付しました）

(5) 指定文献の抄読とその内容に関する積極的な意見交換がプログラムの中心です.

☞他施設からの参加者同士で意見交換をしますので，施設事情に関する情報の秘匿を守ってください.

(6) 参加者自身の所属部門での課題に関するプレゼンテーションと意見交換も含みます.

☞所属施設での看護実践の問題や課題の解決に役立てて欲しいと考えているからです.

(7) 全８回のプログラムは講師が参加者を Zoom に招待し，参加者はインターネットに接続可能な自宅や職場から参加してもらいます.

☞Zoom による参加に慣れていない参加者には，接続の仕方などを電話でナビゲートいたします.

(8) 指定文献とインターネット接続料金は参加者の自己負担ですが，**プログラムへの参加費用は無料**です.

(9) プログラムへの参加修了者に「修了証」を発行します.

☞全８回に参加された方に，スケジュールおよび内容を含めたものを発行します.

(10) プログラム修了後も随時 Zoom を通じたフォローアップを提供します.

☞プログラム修了は終わりではなく，新たなスタートと考えています.

３．プログラムの概要（連続８回シリーズ）

1. 精神科救急･急性期看護をめぐる問題と課題（導入）	
	■リスキリング・プログラムのオリエンテーション■精神医療における暴力の発生現況■暴力への対処策に関する現況■英国のおける暴力への政策対処■日本における問題と課題
2. 精神科救急･急性期看護スキルの諸相	
	■精神科救急及び暴力への対処策の構成■３つのコンポーネントとその関連■看護実践の言葉化の試み
3. 暴力と攻撃行動に対応する基本的ケア	
	■援助の原則■患者理解と信頼関係■接近法■距離感■相互作用
4. 暴力と攻撃行動に対応する救急･急性期看護の原則	
	■傾聴■安全確保■情報伝達と人的資源の確保■警戒■対象の安全確保と保護■攻撃行動への転化要因の特定■リスクの回避■安全と危険度の判断■精神科看護師としてのモラル■認知と理解力の評価■アプローチの多様性
5. 攻撃場面に対応するスキル①	
	■場面のコントロール■ハイリスクへの備え■自らの鎮静■攻撃理由の理解■攻撃パターンの理解■脱エスカレーションの方策
6. 攻撃場面に対応するスキル②	
	■「逃げ場」の確保■状況判断■推移する状況についての判断■「落としどころ」の模索■中立的・非評家的態度による交渉■暴力の了解的な理解
7. 暴力と攻撃に対処した事例の検討	
	■参加者からの事例の提供■提供事例の検討■検討を通じた対処・予防策の検討

８. 精神科臨床経験の共有から“範例”へ（修了式）
■昨今の臨床現場の変化■精神科臨床の歴史的変化■精神科看護実践の“復権”

４．講師紹介

今でこそ Zoom によるオンライン・ミーティングは当たり前ですが，本プログラムの講師はコロナ禍以前の 2014（平成 26）年より，全国に散らばる大学院生の修論や博論の指導，精神看護専門看護師コースに在籍し都内の精神科病院で実習に励む院生との間で，日々，双方向のコミュニケーション・ツールとしてフル活用して参りました．

この時期，Zoom の利用者は世界の 4%に留まっており，Skype などに比べて全くマイナーなツールでした．あたかも 1 対 1 で対面しているかのような意思疎通が可能で，画面共有や録画機能においても Zoom は他の追随を許さない「優れもの」でした．交通費や宿泊費を必要としない高いコストパフォーマンスを誇り，遠隔地の大学院生や臨床家と直に繋がり，抄読会や研究指導を行って参りました．ICT を活用し全国の人々と繋がるプラットフォームを確立する活動においては，7・8 年先を先駆けてきたと自負しております．

現在も病院の看護部と Zoom による看護研究指導や中堅管理職者とのコンサルテーションを展開し，岩手県では３年目を迎えました．ICT を活用した臨床現場と意見交換の経験を蓄積しております．単発の研修では，お互いの実践を見つめ直すには十分ではありません．連続した積極的な意見交換がなければ効果が得られないとの考えから，今回，標記のように連続したプログラムを企画しました．

(1) 学歴

弘前大学教育学部卒業，弘前医療技術短期大学部卒業，放送大学大学院文化科学研究科総合文化プログラム環境システム科学群修了（修士（学術）），北海道医療大学看護福祉学研究科看護学専攻博士後期課程修了（博士（看護学））

(2) 職歴

青森県立つくしが丘病院看護師，県立青森高等看護学院専任講師、青森県立精神保健福祉センター主幹，弘前学院大学准教授・教授，長野県看護大学大学院教授，岩手保健医療大学看護学部教授，同大大学院看護学研究科研究科長

(3) 主な著作など

・岡田実：暴力と攻撃への対処－精神科看護の経験と実践知，すぴか書房，2008（指定文献）

・岡田実：ナイチンゲールの女性論－ラスキン，J.S.ミル，ガマーニコフとの比較から〔所収：ナイチンゲールはフェミニストだったのか，31-76 頁，日本看護協会出版会，2021〕

・阿保順子・岡田実・東　修・那須則政，共著：統合失調症急性期看護学－患者理解の方法と理論にもとづく実践，すぴか書房，2021

・マーティン F. ウォード著，阿保順子・田﨑博一・岡田実・佐久間えりか共訳：精神科臨床における救急場面の看護，医学書院，2003

・岡田実（2006）：精神科病院における攻撃と暴力に関する予測と対処－精神科看護師の臨床経験の観点から，精神科治療学，21（8）；841－846

・岡田実（2007）：精神科病院における患者の暴力と攻撃行動に対する看護介入技術に関する研

究，日本精神保健看護学会誌，16（1）；1－11
・岡田実（2007）：暴力と攻撃行動に対処する精神科看護実践の技術的諸相－「読みと見極め」および「身体準備性」について，弘前学院大学看護紀要，2（1）；9－22

４．看護部長様にお願いしたいこと

(1) 本プログラムへの参加を勧めたい中堅看護師の方がいらっしゃいましたら，以下の書式１にある**『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』への推薦状**にてご推薦ください．

(2) 同時に，参加者ご本人は書式２の**『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』への参加申込書**にご記入いただき，書式１と一緒に，本プログラム講師宛（mokada@iwate-uhms.ac.jp）に添付のうえお送りください．

(3) 折り返し，本プログラムへの**参加承諾書**をお送りします．

(4) 本プログラムの開催時間帯を 18:00～19:30 までと想定しています．プログラム参加に伴ない，**初回の開催日に限り，参加者の勤務にご配慮くださいますようにお願いいたします**．2 回目以降は，初回のセッション終了時に参加者全員で調整します．

(5) 参加要件などについてご確認等ございましたら，講師宛にメールでご相談ください．

５．プログラム開始時期について

８回シリーズの初回は，本年**6月 28 日（金）から開始**を考えております．したがいまして，今回のプログラムへの参加申込みは，**6月 14 日（金）正午まで**とさせていただきます．

書式１ 『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』への推薦状
書式２ 『精神科中堅看護師のためのリスキリング・プログラム』への参加申込書